

# 付着生物ラーバ情報

## 今後マボヤの付着が進む見込み

### 1 ラーバ等の出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

#### (1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは久栗坂沖で12月5日に0.6個体/m<sup>3</sup>見られました (表1、図2)。

#### (2) ムラサキイガイ (通称：カラスガイ、シウリ)

ラーバは奥内沖で12月6日に15.0個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で12月5日に19.4個体/m<sup>3</sup>、野辺地沖で12月4日に45.3個体/m<sup>3</sup>見られました (表1)。

#### (3) マボヤ

ラーバは奥内沖で12月6日に1.7個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で12月5日に4.4個体/m<sup>3</sup>、野辺地沖で12月5日に2.3個体/m<sup>3</sup>見られました (表1、図3)。

卵は奥内沖で12月6日に5.8個/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で12月5日に8.8個/m<sup>3</sup>、野辺地沖で12月4日に1.6個/m<sup>3</sup>見られました (表1)。

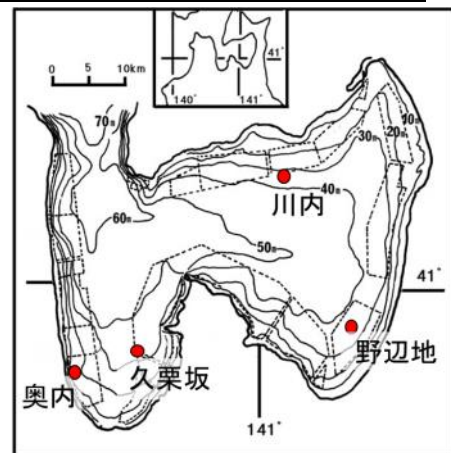


図1 ラーバ調査地点

### 2 今後の見込み

#### (1) ユウレイボヤ

現在、陸奥湾内の中層の水温は13℃前後で、**ユウレイボヤ**が産卵する20℃以下の水温になっています。

奥内沖の累積ラーバ数が8.4個体/m<sup>3</sup>と多くなっています。例年10～12月にラーバが出現することから、未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、**ラーバ出現数が増加する可能性**があるので、未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、親ボヤを減らすために分散作業を進めてください。また、ユウレイボヤは**深いところで多く付着する**ことが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

#### (2) ムラサキイガイ

ラーバの出現数が増加していますが、**秋から冬生まれのラーバの付着はほとんどない**ことが分かっています。

### 3 天然採苗情報

**マボヤ**の卵とラーバの出現数が増加

していることから、今後付着が進む見込みです。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ	マボヤ	
						ラーバ	卵
奥内沖	R5.12.6	0.0	0.0	15.0	0.0	1.7	5.8
久栗坂沖	R5.12.5	0.6	0.0	19.4	0.0	4.4	8.8
野辺地沖	R5.12.4	0.0	0.0	45.3	0.0	2.3	1.6

※久栗坂沖は実験漁場内

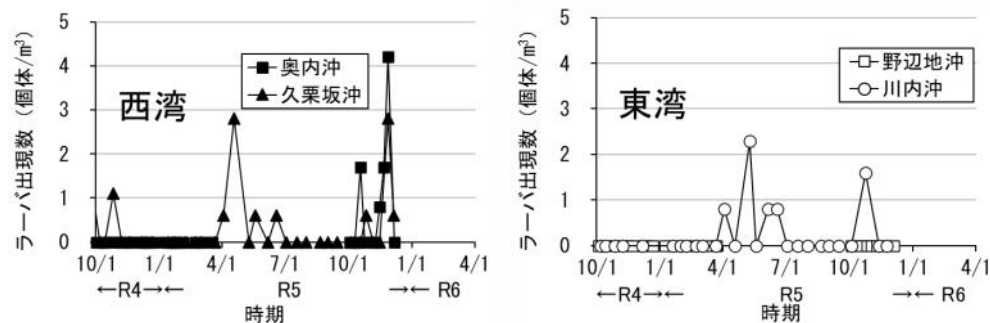


図2 ユウレイボヤ出現数の推移 (令和4年10月～令和5年12月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値：西湾 25個体/m<sup>3</sup>、東湾 10個体/m<sup>3</sup>

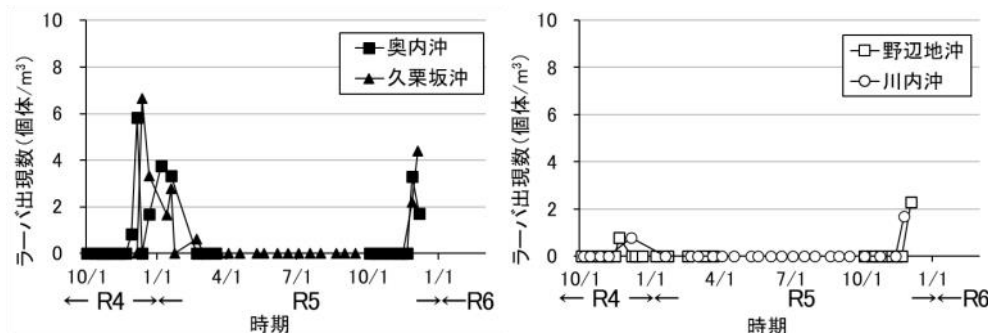


図3 マボヤラーバ出現数の推移 (令和4年10月～令和5年12月)

・平成28年の観察開始から現在までの最大値：西湾 26.7個体/m<sup>3</sup>、東湾 5.0個体/m<sup>3</sup>

